

平成26年度刊行 埋蔵文化財発掘調査報告書要約

『長家上屋敷跡調査報告書』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長家上屋敷跡	城下町	近世 近代	ピット、近代の石垣、近現代の整地層、幕末～明治の硬化面、近世の整地層	陶磁器、瓦、石製品	
要 約					
<p>長家は江戸時代に加賀藩前田家の家老を勤めた家柄で、禄高は代々33,000石を世襲した。金沢市では長家上屋敷跡の近世～近代にかけての変遷を明らかにするため発掘調査と文献史料調査を行った。昭和48年に専売公社の工場が取り壊され、玉川公園が造成された際に、敷地の大半が破壊を受けた。公園の東側に一部遺構の残存が確認され、発掘調査を行った。その結果、江戸時代前半の土器を含む整地層、近代の整地層、昭和の公園造成土の3期の層位が確認された。第1次調査の際には江戸時代前半と明治時代の層の間に幕末を下限とする礫が混ざる硬化面や礫を敷き詰めた層を確認している。</p>					

『沖町遺跡Ⅱ』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沖町	集落	弥生～古墳、 平安、中世	川跡、柵列	土師器、玉製品、石製品、木製品	古墳時代前期の溝跡から側面穿孔管玉が出土した
要 約					
<p>調査地は金沢東インターから約2kmの位置し、金沢市市民野球場やサッカー場がある城北市民運動公園に隣接する。本遺跡は沖町遺跡の北端部で沖町遺跡と磯部運動公園遺跡の境界に位置すると考えられる。遺跡からは弥生時代中期の土器が出土した溝、弥生時代後半の流れのない川跡(沼か)2条、弥生時代末～古墳時代初頭に掛けての溝が2条、古墳時代前期の溝2条、平安時代の溝が1条みつまっている。このうち、古墳時代前期の溝であるSD09からは管玉状の緑色凝灰岩の側面に3ヵ所穿孔がある側面穿孔管玉が出土した。</p>					

『出雲じいさまだ遺跡Ⅱ』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
出雲 じいさまだ 遺跡	集落	弥生時代 後期	掘立柱建物 井戸、溝	弥生土器 管玉原石	北部に玉造り関連 遺物が集中
	集落	古墳時代 前期 中期	竪穴建物、平地式建物 掘立柱建物、井戸 土坑、溝	土師器、須恵器 勾玉、管玉、白玉、管 玉未製品、玉原石	南西部に玉造り関 連遺物が集中
	集落	平安時代	掘立柱建物、井戸 土坑、溝	土師器、須恵器 瓦	突帯付双耳瓶、布 目瓦
要 約					
<p>土地区画整理事業に先がけて実施した出雲じいさまだ遺跡第2～4次調査報告。平地式建物(周溝を伴う竪穴系建物)跡4棟(うち3棟は可能性)、竪穴建物2棟、掘立柱建物14棟(弥生後期1棟、平安1棟、古墳前～中期12棟)、小穴列3条、方形周溝墓の可能性のある溝3基分、井戸や墓坑と推定されるものを含む多数の土坑、および溝を検出した。遺跡の南部域は、古墳時代前期の拠点集落となっており、その南西部では玉造り工房跡の存在を推測させる緑色凝灰岩片や管玉製品・未製品が集中して見つかった。また、弥生時代後期の玉造り関連遺物は遺跡の北部で集中して見ついている。平安時代の遺構としては、道跡の側溝と推測される東西方向の平行する溝や井戸、祭祀行為と推測される炭層を伴う溝状土坑、小石と突帯付双耳瓶が充てんされた小穴が確認された。</p>					

『出雲じいさまだ遺跡Ⅲ』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
出雲じい さまだ遺跡	集落跡	弥生、古墳、奈 良・平安	掘立柱建物、竪穴系 建物、柵列、井戸、 土坑、溝	弥生土器土師器・ 須恵器、 石製品、木製品 玉、玉つくり関連遺 物	古墳時代前期の 土器が多数出土 管玉未成品、削貫 円盤、円盤状未成 品など玉つくり関 連の遺物が出土
要 約					
<p>小学校建設に先がけて実施した出雲じいさまだ遺跡第5次調査の一部についての調査報告。古墳時代前期を主体とする。竪穴系建物4棟、竪穴建物1棟、掘立柱建物10棟(弥生時代後期1棟)柵列2条、井戸や墓穴と推定されるものを含む多数の土坑、溝を確認した。遺跡の中心は北接する第6次調査区にあり、大規模な周溝を有する竪穴系建物が林立している。今回報告区の様々な遺構から玉材の変質流紋岩(緑色凝灰岩)片や各種未成品が散発的に確認されているが、明確な工房跡は不明である。玉類の成品も出土しており、生産地と消費地の性格を併せ持つ遺跡といえる。</p>					

『畝田・寺中遺跡Ⅹ』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
畝田・寺中遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉・室町	建物跡、井戸跡、土坑、河川跡、溝	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、木製品、石製品	平地式建物、縦板組の井戸を検出

要 約

畝田・寺中遺跡:弥生時代の平地式建物、土坑、古代の掘立柱建物、井戸、区画溝、土坑などを確認した。SD213は平地式建物の周溝に相当する。SK213は弥生時代中期の土坑で、土器片多数が出土している。SD221とSD225は併走する東西の区画溝である。SE200は板横棧組井戸である。